

外科学系心臓血管外科学分野

当分野は心臓外科、血管外科それぞれのエキスパートから、実践の中で専門技術を学び、早期の外科専門医取得と広範囲な知識、技量を持った優秀な外科医の育成を目指しています。また心臓血管外科周術期に必要な循環・全身管理を習得することが可能です。

初期臨床研修2年終了後、卒後6年で外科専門医を取得、さらに希望する専門分野の専門医取得に必要な経験症例及び研究論文を作成し、最短卒後7年で心臓血管外科専門医を取得できます。

I. 理念



主任教授 田中正史

基本理念

1. 良好な手術成績を維持し、地域医療連携を大切にし、安心して手術を依頼できるチームであり続ける。
2. 豊富な手術症例のもとに充実した教育プログラムを運営し、多くの心臓血管外科のリーダーを育成する。
3. 手術成績改善に直結する新たな治療法を確立するための基礎臨床研究体制を構築する。

現在、外科専門医の取得には350例の手術経験、120例の術者症例が必須で、多岐にわたる分野の手術を万遍なく経験する必要があります。現時点での細分化された外科分野ではプライマリーケアとしての外科教育が十分なされない欠点をもっています。当分野では外科専門医、心臓血管外科専門医はもちろん、ジェネラリストに必要な基本臨床能力を取得するための教育や研修も行います。さらに外科専門医取得と並行して、心臓血管外科専門医の修練を行い、若手医師のキャリア形成をサポートします。

II. 指導医及び研修施設

指導医

教授	田中 正史		
准教授	瀬在 明	田岡 誠	
助教	飯田 絢子	林 佑樹	

研修施設

- 日本大学医学部附属板橋病院（基幹施設）
- 日本大学病院
- 川口市立医療センター 心臓外科
- 災害医療センター 心臓外科

留学施設（海外）

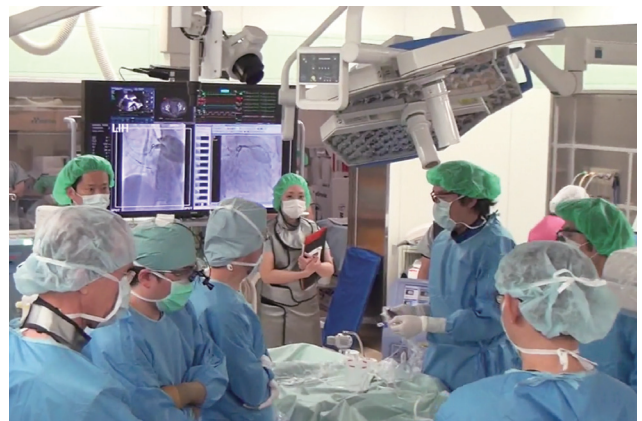
- アメリカ合衆国 バイラー医科大学
- シンガポール共和国 国立シンガポール大学
- ドイツ連邦共和国 ボッフム大学附属ノルドラインウエストファーレン州立心臓病センター
- ドイツ連邦共和国 Hegau-Bodensee-Klinikum
- アメリカ合衆国 スタンフォード大学
- オーストラリア連邦 メルボルン大学
- ドイツ連邦共和国 St.Franziskus-Hospital

Ⅲ. 診療科の特色

2016年4月より田中正史心臓血管外科主任教授が赴任し新たな診療体制となりました。心臓外科では、小児、成人心臓血管疾患を対象に外科治療を行っております。主な対象疾患は虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞、心筋梗塞後合併症）、心臓弁膜症、胸部大動脈疾患（胸部大動脈瘤、大動脈解離など）、先天性心疾患、重症心不全（補助人工心臓植込み）などです。当科では、特に虚血性心疾患、心臓弁膜症においては、循環器内科と協議し、患者さまの御年齢や全身状態、病態を考慮した上で、最良の治療方針を決定しています。虚血性心疾患に対する外科的治療である冠動脈バイパス術は、人工心肺を使用せず（オフポンプ）患者さまの負担を軽減できるよう努めております。また弁膜症では低侵襲治療として皮膚切開が5～6cmほどでできるMICS（Minimally Invasive Cardiac Surgery、低侵襲心臓手術）による大動脈弁置換術、僧帽弁形成術を積極的に施行しています。大動脈疾患も増加傾向にあり、血管外科との連携により従来の開胸・開腹手術とするか、ステントグラフト（カテーテルによる低侵襲治療）とするかの協議を迅速に行い、患者さまの背景や体力に応じた最良の治療方法を選択し、施行しています。急性大動脈解離や大動脈瘤破裂など緊急手術を要する場合には24時間365日緊急対応できる体制を整えています。先天性心疾患に関しては、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症やその他の先天性心疾患に対する手術も行っており、周産期センター開設に伴い極小未熟児（最小360g）の動脈管開存症に対する緊急手術も増加しており積極的に治療にあたっています。また板橋病院は植込型補助人工心臓認定実施施設、日本大学病院は経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設として先端医療を行っております。

当教室の血管外科では動脈、静脈を含めた血管疾患の超音波検査、血管造影検査を行い、自ら診断し、外科治療・血管内治療・薬物治療の全てを総合的に行っている事が最大の特徴です。年間約450例の血管外科手術、血管内治療を行っております。腹部大動脈瘤手術（破裂例も含む）年間約70例、1990年以降約1100例の手術を行っております。当院は胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療が可能な実施施設でもあり、積極的に胸部・腹部大動脈瘤に対してステントグラフト内挿術も行っております。また動脈瘤以外の血管内治療も早期から取り組んでおり、ここ10年で末梢動脈疾患に対する血管内治療は1000例を超える経験があります。その他エコノミー症候群で知られる深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症に対しても院内において年間600例程度行い、急性期深部静脈血栓症では機能的予後の改善を目的としてカテーテル直接線溶療法も行っており良好な成績を得ています。

手術室



IV. 後期臨床研修プログラムの特徴

日本大学外科専門医研修プログラムに準じ研修を行います。入局という形で心臓血管外科専門医を取得可能な7年目までは関連病院含め、心臓血管外科を中心にローテーションして研修を行います。不足したその他の外科分野の症例に関しては院内での外科短期間ローテーションや、外勤先での手術経験によって外科専門医を取得することができます。研修を通じて全身管理、救急対応などの集中治療のスキルや出血、血管修復などの外科的技術を身に付けることが可能です。

スケジュール（板橋病院）

1. 毎週月曜日 8時30分からカンファレンス
2. 毎週金曜日 8時から抄読会及び手術カンファレンス
3. ①毎朝8時から病棟及びICUカンファレンス ②週1回の循環器・内科外科合同カンファレンス
③VADカンファレンス
4. 医局会、リサーチミーティング（年2回）

専門修練コース（板橋病院）

予定手術は心臓外科：火・水・木曜日、血管外科：木曜日（手術）、月・水・金・土曜日（局所麻酔手術、カテーテル治療）。その他緊急手術は24時間体制で随時対応。研修期間において以下の手技を習得できるようにトレーニングします。

手術術者

心房中隔欠損症パッチ閉鎖
大動脈弁閉鎖不全弁置換
大動脈解離上行大動脈置換
下肢静脈瘤ストリッピング
血管造影、血管内治療
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術
透析内シャント造設
ASOバイパス術、血栓内膜摘除

手術・手技

開胸心マッサージ
開胸手術・胸骨正中切開手術の基本的な手術手技
橈骨動脈、下肢静脈グラフトの採取
開心術における人工心肺接続手技
大腿動静脈、上腕動脈等血管確保
IABP 外科的挿入術及び抜去術
PCPS 外科的挿入、抜去
下肢静脈造影
頸動脈・下肢静脈超音波検査
気管切開
胸腔ドレーン留置

Off the Job Training

現在、心臓血管外科専門医を取得するためには30時間以上のOff the Job Trainingの履修義務が定められています。当教室では定期的に手術トレーニングセンターでのウェットラボや医局内でのドライラボを行っています。



V. 大学院

後期研修期間に大学院への入学を希望があれば、科目主任の指導方針に従い、希望する方法で医学博士の取得を目指すことができます。当分野では、外科学、循環器外科、および人工臓器・移植に関する研究内容があります。また、大学院生は研究だけでなく、臨床医としての研修を継続することができる「横断型大学院」を以前より積極的に運用し、専門医資格と学位（医学博士）を同時にめざす大学院コースを設定しています。

主なテーマ

- ・ 機械的循環補助法と人工心臓
- ・ 重症虚血肢に対する脱分化脂肪細胞移植の治療効果検討
- ・ 虚血再還流障害のメカニズムの解明
- ・ 開心術後の体液貯留評価と管理、心房細動予防法の検討
- ・ 冠動脈バイパス術におけるグラフト流量波形解析
- ・ 免疫応答解析を用いた大動脈解離の研究

VI. 取得できる専門医、資格

外科学会専門医、心臓血管外科専門医、循環器学会専門医、脈管専門医、ステントグラフト実施医、心臓リハビリテーション指導士、下肢静脈瘤血管内焼灼実施医、血管内治療認定医

VII. 待遇

専修医1年目

月手当 215,000 円、当直 5,000 円／回（当直は4回／月）。

その他に週1回の外勤日と当直を認め、外勤については教室で全面的にバックアップを行っています。多くは関連病院ならびに関連施設であり、外科専門医習得にむけての修練にもなります。また月1～2回程度の週末の外勤も認めています。（月額50～100万円程度）

外科医としての女性の医師の需要が今後増える傾向にあります。女性ならではの視点、観点からの治療や患者との交流を当科は必要としております。当然、結婚、出産、子育てという部分に最大限の理解をする準備があります。大学として出産、育児休暇を半年、その後も勤務体制を考慮し女性医師にとって、もっとも良い環境を構築できるよう、体制を整えていきます。



朝の医局カンファレンス



納涼会

問い合わせ先

専門医研修に対応する担当者

病院代表 TEL：03-3972-8111（内線2462）

医局長 原田 篤 E-mail：harada.atsushi36@nihon-u.ac.jp

日本大学医学部 心臓血管外科ホームページ：http://www.nu-cvs.jp